

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和7年度目標値)	令和7年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和8年度の活動計画
1	I.「高めて、広げる」	①外国人観光客の受入促進	1－1外国人観光客の受入促進	外国人観光客にとってのデスティネーション(旅の目的地)形成に向けた受入基盤整備、WEBやSNSほかデジタル技術を活用した海外向け情報発信、海外での商談会、海外インフルエンサーの活用、外国人に対応できる人材の育成等により、アフターコロナの外国人観光客から「選ばれる観光地」を目指します。	①外国人観光客向けのツアー販売 紹介数 2回 ②海外ターゲット国への効果的な情報発信 国数6か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 7件	①外国人観光客向けツアー販売 紹介数 0回 ②海外ターゲット国への効果的な情報発信 国数 4か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 4件 ○外国人観光客受入基盤整備・情報発信業務(観光協会) ・主要なターゲット国に台湾、韓国、タイ、オーストラリアを選定し、旅行博、商談会は、韓国でゴルフをメインにした商談及び旅行博への参加、台湾遊楽日への対応、SnowShowシドニーへのの出展を行い、八幡平市の魅力を発信した。	順調	・東北地域の国際線直行便は、インバウンド需要の回復に伴い便数が増加しており、令和7年に岩手県を訪れた外国人観光客は、対前年比118.5%となった。また、円安の影響を受け、八幡平市においても外国人観光客の回復傾向が見え始めており、特に、台湾、香港からの来訪が増加している。 ・外国人宿泊者数はコロナ前の水準には戻っていないものの、対前年度比113.9%と増加しており、質を重視した施策が功を奏していると評価される。	・令和8年度においても、海外ターゲット国への効果的な情報発信等の同様の取組みを継続していく事が重要である。 ・地域情報の発信に伴い、地域DMCと連携を図りながら、大手OTAとの連携も引き続き推進する必要がある。	○外国人観光客受入基盤整備・情報発信業務(観光協会) ・海外ターゲット国への情報発信・旅行サービス案内・ツアー紹介 ・Snow Travel Expo Sydney 2026への出展と現地での情報発信 ・ターゲット国へのプロモーション ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC)
2	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2－1「すべての人が楽しめる」ナショナルパーク八幡平の環境整備	ナショナルパーク八幡平は、山頂付近の勾配が非常に緩やかで、誰もがアクセスしやすい日本百名山です。これを、誰もが到達できる、ユニバーサルデザインの百名山として捉え、老若男女、年齢や身体的な理由で登山を諦めていた人にも、登山の魅力を提供できる、ユニバーサルツーリズム(すべての人が楽しめるよう創られた旅行)を推進します。	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 1か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 モニターツアーR8までに1回	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 2か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 継続 ○黒谷地湿原木歩道改修(県) ○御在所沼遊歩道改修(市) ○環境省十和田八幡平国立公園管理事務所との意見交換(市)	順調	・現状の施設、登山道、避難小屋等が抱える課題解決に向け、関係機関と協議を継続し、改善策の検討に取り組んだ。 ・自然公園保護管理員のバトロールや山岳協会等の関係機関が把握した木道、遊歩道、案内板の修繕箇所について、管理者である岩手県に対して要望を行った。	・国立公園内での取組みのため、環境省、森林管理署、県等の関係機関との合意形成が必要である。	○御在所沼遊歩道改修(市) ○自然保護管理員のバトロールで把握した木道、遊歩道、案内板の修繕箇所について、管理者である岩手県に対して要望を行う。(市) ○国立公園満喫プロジェクト 見返峠駐車場再整備(環境省) ・秋田県トイレ撤去(R9新築工事、R10八幡平市トイレ撤去)
3	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2－2トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備	トレッキングガイドの利用促進や人材の確保、質の向上を目的に、八幡平山頂エリアのガイド人材の育成、WEBによるガイド予約販売の仕組みを構築し、ツアー造成や販売を実施します。	①50kmtレイル等ガイド付きツアーのWEB予約・販売の仕組みづくり R6構築完了 ②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 6回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討開始	②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 0回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討継続 ○モデル観光地事業(観光協会・DMC) ・八幡平エリア独自のガイド制度の実装に向けた調査を実施した。 ・国内ガイド有識者によるOJT実証 ・八幡平散策ガイド向けの人材養成を行った。(観光協会) ・プロガイドの育成を含めたガイド育成のあり方についてモデル観光地事業の中で検討を始めた。	やや遅れ	・外国人観光客からは、地域ガイドやスルーガイドのニーズが高まっており、特に富裕層向けへの対応も含めたガイド人材の育成が必要である。 ・八幡平山頂エリアに散策ガイドの会の活躍の場が広がっていることから継続した人材確保が必要である。	・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業で販売の仕組みや受入体制の方向性を明確にしなければならぬ。 ・自然ガイド養成事業と並行してガイド育成の仕組みを検討する必要がある。	○八幡平市自然ガイド養成事業(観光協会) ・八幡平山頂エリアのガイド人材の養成 ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC) ・DMC組織でのガイド制度の実装に向けた実証運用調査の実施
4	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2－3アドベンチャーツーリズムの観光商品強化	十和田八幡平国立公園及び周辺エリアにおいては、高単価な客層に対して「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される「アドベンチャーツーリズム」の付加価値の高い観光商品の造成と営業強化を実施します。	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 R6～R8 年1件	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 1件 ○Adventure Weak2025東北(東北観光推進機構ほか) ・郷土料理づくり体験(浅沢地区) ・仙台での商談会に参加し、八幡平市の魅力をセールスした。(DMC)	やや遅れ	・北東北で商品を作成し、販売まで見据えた場合、運営リソース上の限界がある。	・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業を通じて、北東北のDMOとの連携した商品造成の基盤構築が重要である。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC) ○アドベンチャーツーリズム(観光協会DMC) ・八幡平市がもつコンテンツ(スキー、ハイキング等)の商品造成
5	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2－4モリアオガエルをアイコンとしたブランディング	「大湯沼モリアオガエル及びその繁殖地」は国指定から50周年を迎えます。市民も観光客も、八幡平の豊かな森と自然に誇りを持ち、天然記念物の生息地を保護する活動を広げ、ナショナルパーク八幡平を象徴するアイコンとして、ロゴやキャラクターの整備、各種情報発信やツアー造成、土産品開発等の活用を推進します。	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション R8 完了 ②モリアオガエル観察会の検討・実施 R8までに 1件 検討	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション - ・市内酒造会社から「ビックイ」がプリントされた「ビックイカップ」が販売された。 ②モリアオガエル観察会の検討・実施 観察会 2件 ・市内宿泊施設と連携した観察会の実施。	順調	・民間事業者によるキャラクターを使用した商品の販売が実施され、事業は効果を上げている。	・民間事業者による事業が展開されており、市や観光協会が主体となる取組みではなく、民間ベースでの展開が望ましい。 ・引き続き、情報発信により観光振興に繋げる。	○民間ベースによる活動
6	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3－1市内スキー場のインフラ投資、DX基盤整備	スノーリゾートを最大の武器に、インバウンドの伸びを加速させるため、ICゲート等スキー場の適切なインフラ投資、人手と人材の両面での不足を補い、CRMを高度化するDX基盤整備の推進、広域共通リフト券の展開、グリーン期の受入基盤整備、スキー場間をつなぐ公共交通手段の確立等を支援することで、スキー場の魅力化を狙います。	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数1回 ②CRM基盤構築 R8構築完了	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数 1回 ②CRM基盤構築 継続 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(観光協会) ・市内スキー場のインフラ整備(インバウンド受入環境整備としてのエアコン新設、スキーバレーサービスコーナー新設、抗菌加工製品を使用した清潔等機能向上のトイレ改修工事)を支援した。	順調	・暖冬の影響は受けるものの、比較的他の地域よりも雪質、積雪量が確保されるシーズンが多いことも特徴であるが、これまでの補助事業のおかげで人工降雪機が稼働しており、安定したゲレンデコンディションを保つことができるようになっている。 ・スキー場の満足度向上のためには、リフト券の値段に見合う上質化を図るためにゴンドラリフトのリニューアルなど、インフラ整備が必要である。	・観光庁などの有利な補助金を活用し、計画的なリニューアルを促進するため地域全体で共有することが必要である。 ・CRMを活用したタイムリーな情報配信には運営体制の強化が必要である。 ・グリーン期の魅力の向上も必須である。 ・リフト券の値段に見合う上質化を図るためにゴンドラリフトのリニューアルなど、インフラ整備が必要である。	○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(観光協会) ○八幡平ファンの獲得(観光協議会)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要 (Plan)	KPI指数 (令和7年度目標値)	令和7年度の取組の状況 (Do)	進捗状況	取組の検証 (Check)	取組の改善案 (Act)	令和8年度の活動計画
7	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3－2海外ファミリー層、富裕層向けの観光商品開発	ハロウィンターナショナルスクール安比ジャパンの開校を経済効果の機会として、ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、芸術とのコラボレーションといった上質なコンテンツの開発、グリーン期のコンテンツ開発等、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 実施数1回	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発 1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 継続 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(観光協会)	順調	・安比高原では、スノーリゾートの新たな魅力化、インバウンド受入環境整備として、スキーバレーサービスコーナーを新設し、サービス向上を実施した。また、「安比 Art Project」の開催や美容家電ブランドのポップアップサロンの開設などの富裕層に見合う上質な価値を創出している。 ・海外ファミリー層向けとして、ハロウ安比校は安比高原でスキー大会を開催したほか、イグルーづくりを学習プログラムに組み込んでいる。また、安比高原エクスプローラーコーナーでスノーシュー等のアクティビティを提供し、生徒家族の冬季雷来訪・滞在に寄与している。	・富裕層受入の実証により、八幡平市で展開できる持続可能な高単価コンテンツに加え、おもてなしガイドの育成が必要である。	○【観光庁】国際競争力の高いスノーリゾート形成計画事業(観光協会) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC)
8	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3－3宿泊施設、観光施設の上質化や多様化	国等の支援を活用し、スキー場や国立公園のベースタウンとなる宿泊施設や観光施設において、上質かつ多様な滞在環境の開発促進を行います。宿泊事業者の高齢化等が進む八幡平温泉郷においては、泊食分離、地域まるごとホテルの推進等、中長期滞在者を対象とした滞在環境の充実化を図ります。また、ワーケーション滞在等の支援も引き続き実施します。さらに、今後の観光集客における重要な要素として、省エネ、カーボンニュートラル、廃棄物の削減を意識した取組を行います。	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修1施設 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進2施設	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修 0施設 ・サービス付き高齢者向け住宅を活用した施設の改装の計画が進んでいる。 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進 0施設 ○八幡平観光活性化合同会社による施設改修の情報収集	大幅遅れ	・サステナビリティに向けた各種補助金の活用が進まなかった。 ・地域まるごとホテルの中心的施設が令和5年11月から休業となつて以来、取組も推進されていない。	・事業の見直しが必要である。	○八幡平市観光活性化合同会社等と連携した事業の検討(観光協議会)
9	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3－4バックカントリーの受入環境整備	CAT(雪上車)利活用推進やバックカントリーエリアでのマナー啓発、雪崩リスク管理や環境破壊への対策、夏季の環境整備等を通じて、持続可能な八幡平バックカントリーエリアを推進します。	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 1回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 1商品 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 69%	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 3回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 1商品 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 0% (CAT故障) ○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・CATスノーシューツアー(4回計画し未実施) ・雪崩情報の発信、安全案内表示の設置	やや遅れ	・リース元での雪上車の故障に伴い、ガイドツアーを遂行することができなかった。 ・組合では、過去の雪崩の発生エリア、地形的なリスク、日々の雪監視からリスクを発信した。	・旅行会社と連携してスノーシューの商品造成を進める。 ・エリアの有り方やルールの有り方を多様な関係者を交えて意見交換を行う。 ・雪崩などの災害発生について、効果的な注意喚起が行えるよう、国立研究開発法人防災科学研究所や岩手大学との共同研究を実施する予定。	○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・大黒森管理組合でBCワークショップを実施 ○雪崩など災害発生の効果的な注意喚起(大国森組合) ○国有地(グレンデ)借上げ(市)
10	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4－1スポーツツーリズムの推進	スキー場やサッカー場、ラグビー場等の施設を活用したスポーツツーリズムによる受入を推進します。また、社会人チームの誘致、観光資源との連携による延泊につながる取組みにより経済効果の拡大を狙います。	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 1チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介) 紹介チーム数 6チーム	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 1チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介) 紹介チーム数 9チーム ・通年でのスポーツ合宿及びスポーツイベントの招致活動を継続して行い誘客を促進した。 (市観光協会スポーツ誘致委員会)	順調	・宿泊施設やグラウンド、ラグビーチームの減少により、配宿が厳しい状況となっている。 ・宿泊単価が引き上げられている中、一般客と比べて単価が低く設定される大会や合宿の受け入れが難しい状況にある。	・宿泊施設の受入れ数やグラウンド数の状況に合った合宿、大会の誘致に切り替える必要があるため、各関係者での連携が必要である。 ・高校ラグビーチームが減少している中で合宿チームを増やすことが必要である。 ・今後も受け入れを継続していくためには、競技団体と調整し、開催時期を閑散期に設定するなど工夫が必要である。	○八幡平スポーツ誘致委員会として、スポーツ大会、合宿の誘致(観光協会)
11	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4－2サイクルツーリズムの振興	八幡平アスピーテラインや八幡平パノラマライン等、景観に優れたルートを活用し、八幡平ヒルクライム大会の実施や、e-bikeを活用したライドツアーを造成します。また、国内外に八幡平サイクルツーリズムの情報や魅力の発信を行います。	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 3ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 実施国数 2か国	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 0ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 情報発信の実施 0か国 ○花輪線の利活用と組み合わせたサイクリトレインの実証実験を実施した。(市) ・5/10～10/27実施 予約58台 ○電動自転車を使った商店街回遊事業の実施(商工会) ・安代エリア、大更駅前エリア、八幡平温泉郷エリア	順調	・アドベンチャートラベル分野においては、サイクルツーリズムのニーズが高まっていることが確認された。 しかし、サイクルツーリズムに対応できるガイド事業者は限られており、供給体制が不十分である。 ・オンロードコースはいくつか整備されているが、オフロードコースは不足しており、今後の課題となっている。 ・花輪線サイクリトレインは、運行本数を増加し、予約台数も増加している。 ・電動自転車を使った商店街回遊事業は大更地区に初めてレンタル自転車を設置し、駅周辺を拠点とした観光行動の促進につながった。	・八幡平ヒルクライムを契機にサイクリストの中で八幡平の知名度は高まっているが、単に道进行ただけではなく、周辺の温泉やペンション、地元の食を組み合わせたストーリー性のある体験メニューの拡充など、各施設との連携が必要である。 ・花輪線サイクリトレインは、運行区間が十和田南駅まで延長されたことも踏まえ、より一層の情報発信が必要である。	○体験OTAや旅行会社と連携した販売促進(観光協会・DMC) ○岩手県広域サイクリングルート検討会議による道路標示や案内看板の設置(県) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC) ○花輪線サイクリトレイン(市) ○電動自転車を使った商店街回遊事業(商工会)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要 (Plan)	KPI指数 (令和7年度目標値)	令和7年度の取組の状況 (Do)	進捗状況	取組の検証 (Check)	取組の改善案 (Act)	令和8年度の活動計画
12	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑤地熱等の資源からSDGs、サステナビリティを学ぶ	5－1 地熱、松尾鉱山等を活用した教育旅行、企業研修の推進	地熱発電所による地熱資源を活用した農業や地熱蒸気を使った地熱染め、安比高原中のまきばの野芝の再生活動等、サステナブルな取組みが行われています。 こうした地域資源や松尾鉱山の学びを生かして、教育旅行や企業研修誘致の取組みを推進し、閑散期の集客を目指します。	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 教育旅行の新規誘致数 8校 ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 4社	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 0件 ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 1社 ○教育旅行誘致補助金交付3校(市) ○岩手県教育旅行説明会でのセールスを行った。(大阪、名古屋会場) ○みちのくラベル東北による企業研修を実施した。(学習院跡地ほか)	やや遅れ	・閑散期対策の一環として教育旅行の受入れを進めてきたが、大型の教育旅行に対応可能な宿泊施設が減少しており、受入体制に課題がある。 ・教育旅行説明会は、短期的な結果にはつながりづらい。	・教育旅行受入をどのように推進するか検討する必要があるが、長期的・継続的なアプローチが必要である。 ・深いテーマ性を求める教育旅行のニーズに対応できる体制が必要である。 ・価格競争に陥りがちな教育旅行での差別化の必要がある。	○教育旅行誘致の方向性を調査(観光協会) ○教育旅行誘致補助金(市) ○教育旅行説明会への参加(事業者・市・観光協会)
13	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6－1 歴史的・文化的資源を活用した広域連携の強化	令和2年「“奥南部”漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が、文化庁の日本遺産に認定されました。 また、令和3年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたことにより、北東北での周遊のニーズが高まると想定されます。 江戸時代の物流を支えた鹿角街道、古くから続く馬事文化に絡め、安比高原中のまきばも、地域資源として積極的に活用し、文化や歴史を共有する自治体との広域連携強化を推進していきます。	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数2回 歴 史 文 化 ツ ア ー 組 込 数 2 回	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数 2回 ○日本遺産「奥南部」漆物語を活用した観光コンテンツ造成による、国内外から誘客と地域消費拡大に向けた事業を推進した。 ○ランドオペレーターを継続して整備し、体験コンテンツの拡充やツアー造成を行い、受入れ体制の整備、誘客促進を図った。 ・団体ツアー(ワールド航空サービス) 2回実施	順調	・日本遺産「奥南部」漆物語を活用し、体験コンテンツの拡充やツアー造成を行い、旅行会社への訪問セールスにより受入れ数が2社増加した。 ・二戸市観光協会がランドオペレーターとして実務が出来るようになり、首都圏の旅行会社などとのつながりが出来始めている。	・奥南部地域に点在する漆に関連した資源、施設群を活用して、いかにストーリーを伝えるかの具体的戦略が必要である。 ・二戸市観光協会と協力し、ランドオペレーターの継続した活用を進める。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協議会) ○【文化庁】日本遺産事業と連携した取組み(奥南部協議会)
14	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6－2 食の体験コンテンツ強化	地域食材の活用や食の体験コンテンツの提供を推進し、観光客の満足度向上につなげます。 また、アグリツーリズムをテーマとした食や農の体験プラン造成、食材情報プラットフォームの整備を通じ、農(みのり)の観光コンテンツ化を目指します。	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 R8までに構築 ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 1件	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 周遊コース紹介のWEBページを開設検討 ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 0件	やや遅れ	・地産地消の機運が高まっており、地域の食材を活用したメニューの提供の機会が増加している。 ・地元食材を素材から調理するには、コストがかかるため、域外で生産された調理済み献立などを使用するケースが多い。 ・地域食材を活用した商品の試作を行い、ミートマトの活用可能性を見い出した。 ・アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発は実施主体がなく、取組は難しい。	・市内には豊かな食材が多くものの、加工品が少なく、地元食材を活用した土産品が不足している現状がある。地元事業者や農産加工業者と連携し、地域色を活かした商品開発を進めることが必要である。 ・海外のレストランに八幡平の食材や食の担い手が訪問してコラボレーションし、八幡平を紹介するイベントの開催や八幡平・盛岡のシェフでも海外を魅了できるクオリティの向上を図る。	○地元色を活かした具体的商品開発の検討(市・商工会・産業振興株)
15	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6－3 市民向けの観光体験提供	市民や、次世代を担う子供達が地域への誇りと愛着を醸成する取り組みとして、観光に関する授業や市民向けの観光体験会を実施し、観光人材の確保につなげます。	①平舘高校への観光授業の提供 観光人材の確保 4名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数 4回	①平舘高校への観光授業の提供 観光人材の確保 6名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数0回 ○観光人材育成事業 ・平舘高校への授業の提供 ○八幡平市観光動向分析調査等業務(DMO) ・市民向けアンケートの実施	順調	・平舘高校向けの観光人材育成事業では、地域資源を活用した商品開発や販売実習などに取り組むことで、将来の観光人材の確保につながった。 ・市民向け体験会は実施できなかったものの、各種イベントを通じて観光地の魅力発信を継続的にやっている。	・市内学生や平舘高校卒業生がつながるネットワークを活用し、地域での就業情報などの地元就業への関心を高める。	○観光人材育成事業(市) ・平舘高校への観光に関する授業の提供 ○各種イベントでの観光体験(市)
16	Ⅲ.「つなぐ」	⑦豊かな観光資源を次世代につなぐ	7－1 観光資源の保全	貴重な観光資源の喪失を防ぐため、市民や観光関係事業者を中心に、観光資源の維持・保全に係る取組みや民間資金を募るクラウドファンディング等による資金調達を検討します。 また、これまでの活動を支援し、次世代に観光資源を引き継ぐ活動に取り組んでいます。	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回 ②関係機関との連携 連携団体数 2団体	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回 ②関係機関との連携 連携団体数 1団体 ○御在所遊歩道等の環境整備を目的としたクラウドファンディングを実施 ○八幡平外来植物駆除活動の実施 ・環境省盛岡管理官事務所による事前学習を実施し当日の駆除作業を行った。	順調	・外来植物駆除活動は松尾中学校の環境学習として定着した行事であり、未来につなげる活動として継続することが重要である。 ・市民や民間団体を巻き込んだ活動に広がるより効果が見込める。	・外来植物駆除活動の取り組み等を情報発信することにより、市民や民間団体に自然環境の維持・保全の理解を深める。	○八幡平市地域公共交通活性化協議会による協議(市) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC)
17	Ⅲ.「つなぐ」	⑧交通アクセスの拡充	8－1 交通アクセスの拡大・改良	観光需要に配慮したコミュニティバスの利用検討と電気バスやEV車等の導入の推進、自家用有償運送等の新たな移動手段の検討と岩手山サービスエリアのバス停設置を通じ、観光客のアクセス向上を目指します。	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 R8構築完了 ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 継続 ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 R8まで1台 ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大2エリア	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 継続 ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 継続 ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 1エリア 継続 ○安比高原観光輸送協議会による自家用有償旅客運送の継続 ○訪日外国人の増加を見込んだ、ハイグレード車両のエリア拡大の認可 継続(市)	順調	・盛岡市～八幡平市間の路線バスの再編の状況を踏まえ、観光バスの効率化についても並行して、地域公共交通活性化協議会で検討を行った。 ・自家用有償運送のエリア拡大の必要性等を東北運輸局に訴えた。	・八幡平市地域公共交通活性化協議会と連携し、路線バス、花輪線と一体となった交通網としての検討を進めるとともに、移動手段の確保としての方策を検討する必要がある。	○自家用有償運送の実施についての情報収集(市) ○八幡平市地域公共交通活性化協議会による協議(市) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(観光協会・DMC) ○日本版ライドシェアの調査・研究(DMC)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要 (Plan)	KPI指数 (令和7年度目標値)	令和7年度 of 取組の状況 (Do)	進捗状況	取組の検証 (Check)	取組の改善案 (Act)	令和8年度の活動計画
18	Ⅲ.「つなぐ」	⑨観光推進体制の強化	9ー1観光推進体制の強化	市観光協議会や市観光振興審議会と連携し、計画のPDCAを推進し、進捗状況を評価や検証する体制を強化します。さらに、観光経営人材育成や観光施策財源確保に向けた検討を行います。 また、関係人口、交流人口の増加につながる、ファンコミュニティの仕組みづくりを構築します。	①観光地域づくり法人（観光プラットフォーム）の体制強化 協議会実施回数 4回 ②ファンコミュニティの形成 ファン数 R8までに10,000人	①観光地域づくり法人（観光プラットフォーム）の体制強化 協議会実施回数3回、審議会1回 ②ファンコミュニティの形成 ○八幡平市観光動向分析調査等業務 (DMO) ・宿の予約エンジンと連動し、多言語で対応できる地域OTA機能を搭載した多言語ウェブサイト整備 ・ファンクラブ構築に向けたメールマガジンの配信を行った。 英語版メールマガジン登録者数 510人	順調	・定期的な観光協議会の開催により、関係者間の意見交換や連携体制の構築を図った。 ・ファンコミュニティの体制、方針は定まっていない。	・八幡平市観光協議会構成員へのメールでの情報提供により、連携強化と双方向のコミュニケーションを促進する。 ・ファンクラブ設立に向けての体制整備と具体的な運用方針の検討を進める。	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業（観光協会・DMO） ○八幡平市観光動向分析調査等業務（観光協会） ・満足度、観光消費等マーケティングデータ収集及び分析※登録DMO必須 ・ファンコミュニティの形成